

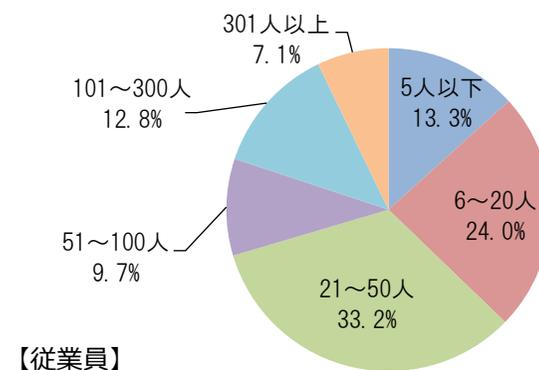
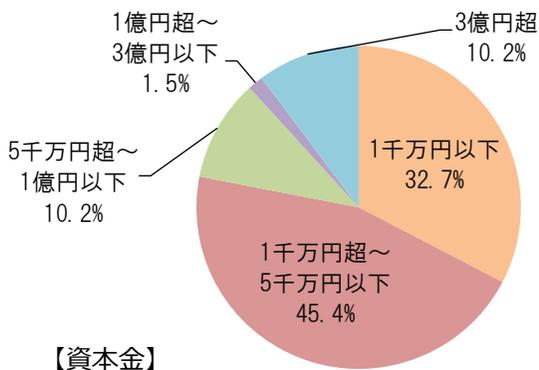
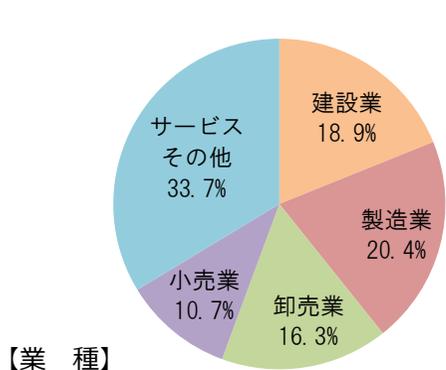
1. 調査期間 2025年3月6日(木)~2025年3月25日(火)
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業526社
3. 回答状況 195社 (回答率37.1%)
4. 調査項目 ①3月の業況と先行き見通し  
②政策金利引き上げの影響
5. 回答企業属性

(参考) 全国の調査結果についてはこちらをご参照ください

日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry

商工会議所LOBO調査 結果

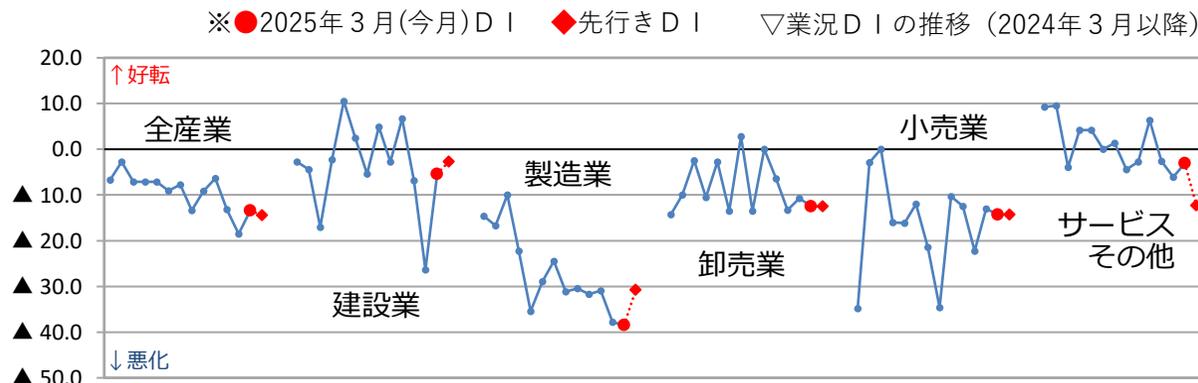
<https://cci-lobo.jcci.or.jp/>

### ① 3月の業況と先行き見通し

全産業合計の業況DIは▲13.4と、前月から5.1ポイント改善。先行き見通しDIは▲14.4と悪化の見込み。

|         | 2025年  |        |        |
|---------|--------|--------|--------|
|         | 2月     | 3月     | 4月~6月  |
| 全産業     | ▲ 18.5 | ▲ 13.4 | ▲ 14.4 |
| 建設      | ▲ 26.3 | ▲ 5.4  | ▲ 2.7  |
| 製造      | ▲ 37.8 | ▲ 38.5 | ▲ 30.8 |
| 卸売      | ▲ 10.7 | ▲ 12.5 | ▲ 12.5 |
| 小売      | ▲ 13.0 | ▲ 14.3 | ▲ 14.3 |
| サービスその他 | ▲ 6.1  | ▲ 3.1  | ▲ 12.3 |



※DI値について…ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

※先行き見通しDI = 当月(3月)と比べた、向こう3ヶ月(4月~6月)の先行き見通し

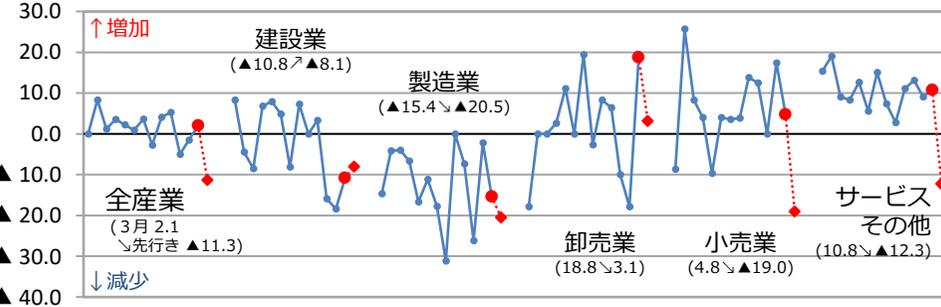
【例】

$$\text{業況DI} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

### 1) 売上DIと先行き見通し

▽売上DIの推移 (2024年3月以降)

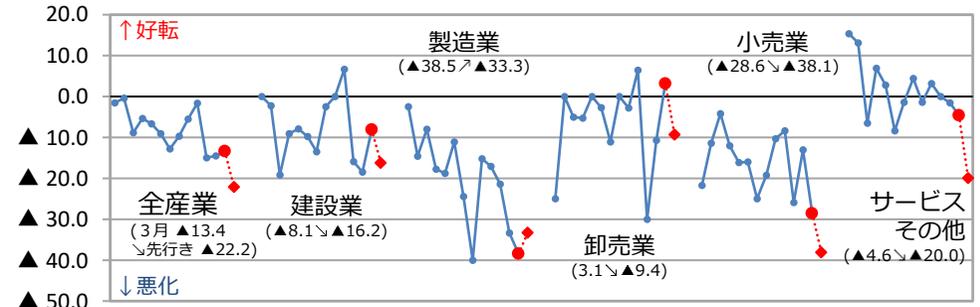
売上DIは2.1と前月から3.6ポイントの増加。  
先行きDIは▲11.3と悪化の見込み。



### 2) 採算(経常利益)DIと先行き見通し

▽採算DIの推移 (2024年3月以降)

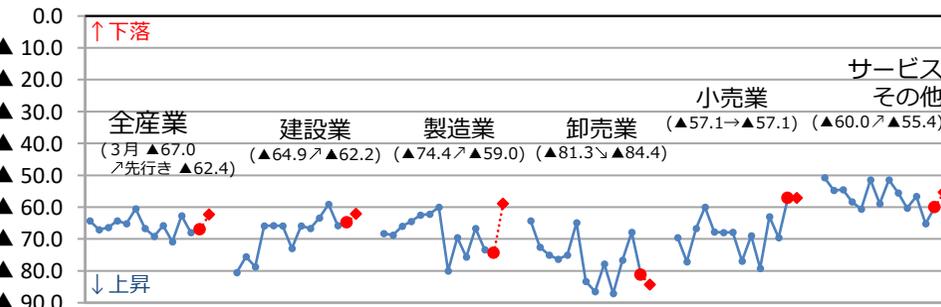
採算DIは▲13.4と前月から1.1ポイント増加。  
先行きDIは▲22.2と悪化の見込み。



### 3) 仕入単価DIと先行き見通し

▽仕入単価DIの推移 (2024年3月以降)

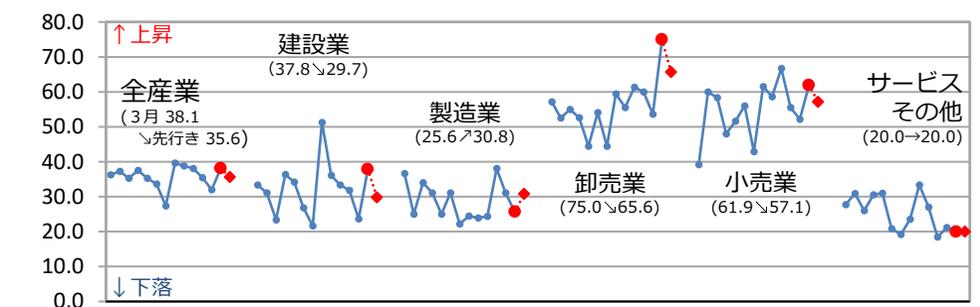
仕入単価DIは▲67.0と前月から1.0ポイント増加。  
先行きDIは▲62.4と仕入価格の上昇を訴える傾向が弱まる見込み。



### 4) 販売単価DIと先行き見通し

▽販売単価DIの推移 (2024年3月以降)

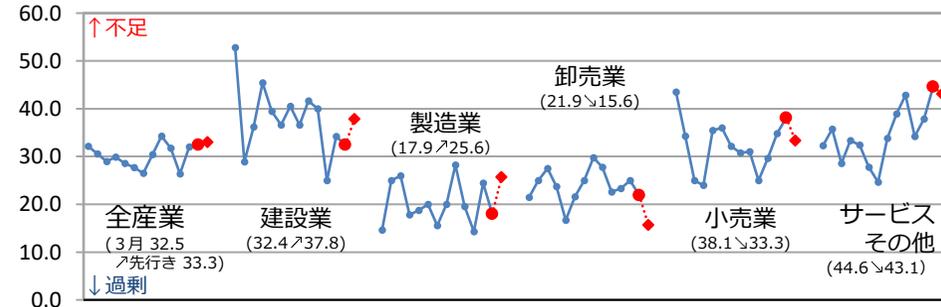
販売単価DIは38.1と前月から6.1ポイント増加。  
先行きDIは35.6と販売単価の上昇がやや弱まる見込み。



### 5) 従業員DIと先行き見通し

▽従業員DIの推移 (2024年3月以降)

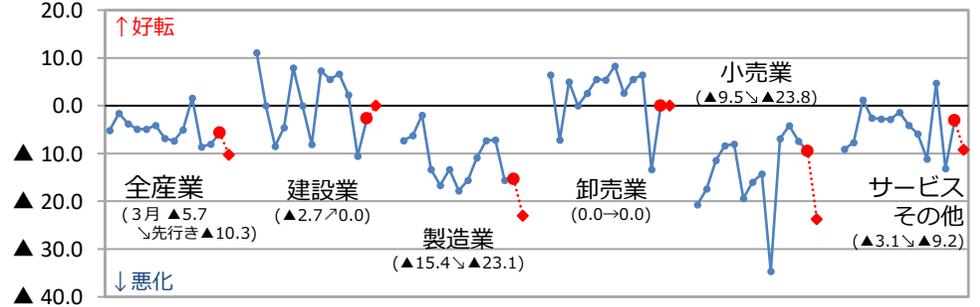
従業員DIは32.5と前月から0.5ポイント増加。  
先行きDIは33.3と人手不足感はほぼ横ばい見込み。



### 6) 資金繰りDIと先行き見通し

▽資金繰りDIの推移 (2024年3月以降)

資金繰りDIは▲5.7と前月から2.3ポイント増加。  
先行きDIは▲10.3と悪化の見込み。



## ②政策金利上げの影響

- 政策金利の上げが業績に与える影響は、「デメリットが大きい」が40.5%で最多となった。一方で、「メリットが大きい」（4.1%）、「メリットとデメリットは同程度」（12.3%）と、政策金利の上げに対しメリットを感じている企業も一定程度あった。【図1】
- 政策金利の上げのメリットとしては、「預貯金の金利上昇」が18.9%と最も多くなった。次いで、「円安に歯止めがかかり、輸入コストが減少」が11.7%となった。【図2】
- 政策金利の上げのデメリットとしては、「借入金の金利上昇」が78.4%と最多となり、資金調達において借入金の割合が高いとされる中小企業にとっては、金利上昇が収益に与える影響は大きく、原材料や労務費等のコスト増加に加えて、新たな負担の増加となっていることがうかがえる。【図2】
- メリットとして「消費マインドの改善」が3.6%となったが、デメリットとして「消費マインドの悪化」が31.5%となっており、政策金利の上げが消費マインドを悪化させると考える事業者が多いことがうかがえた。【図2】

図1 【政策金利の上げが業績に与える影響】

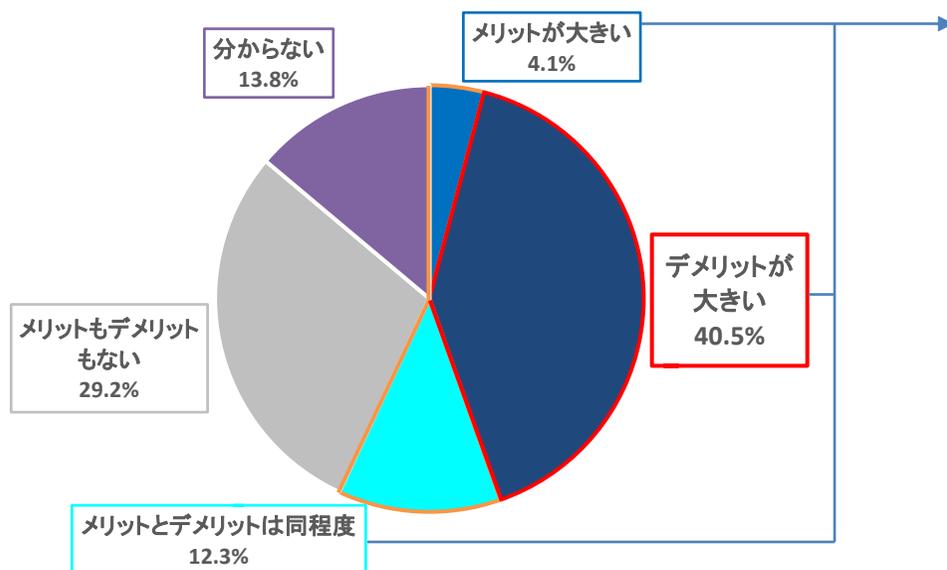
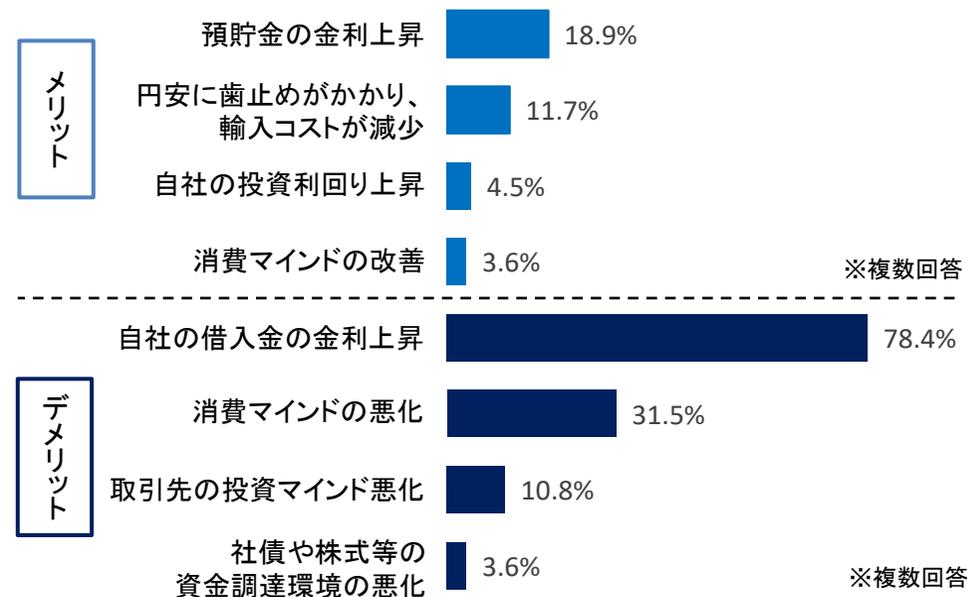


図2 【メリット・デメリットの具体的な内容】

※政策金利の上げが業績に与える影響について「メリットが大きい」「デメリットが大きい」「メリットとデメリットは同程度」と回答した企業が対象



## ②政策金利上げの影響

- ▶ 借入金利上昇への対応状況について、現在までの対応と今後の対応予定ともに「特に対応は行っていない（予定はない）」がそれぞれ、54.0%、52.3%と最多となり、多くの企業でデメリットが大きいにも関わらず、具体的な対応が取れず苦慮している企業が多いことがうかがえた。【図3】
- ▶ 具体的な対応については、「新規借り入れの縮小・取りやめ」が21.8%と最も多く、今後の対応予定でも20.0%と最も多かった。今後の対応として、「借入金の繰上げ返済」が10.8%と二番目に多く、金利負担軽減を目的に繰上げ返済や銀行の変更を行う予定の企業が一定数みられた。【図3】
- ▶ 金融機関の貸出姿勢については、「変わらない」が75.4%と最も多く、政策金利の上げがあった後も多くの金融機関においては貸出姿勢に変化がないことがうかがえた。【図4】

図3 【借入金利上昇への対応】

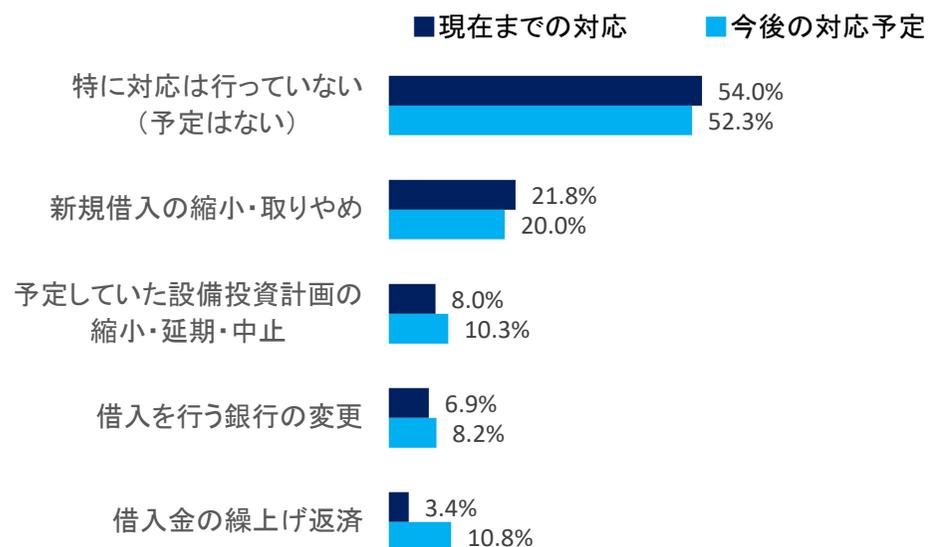
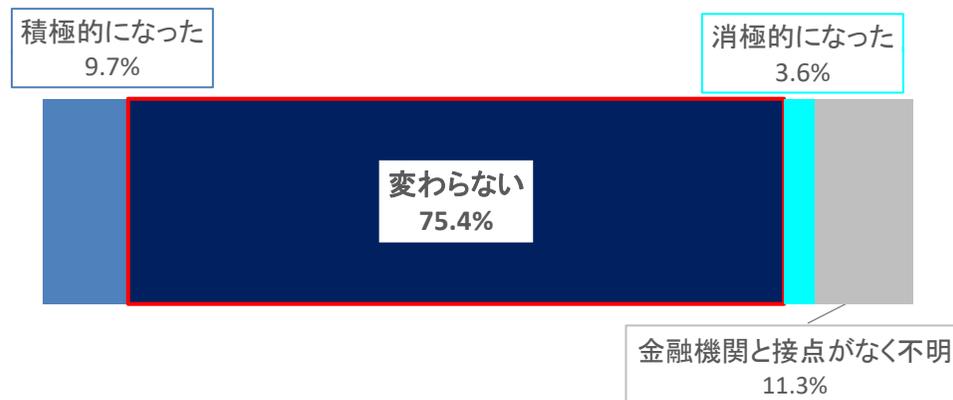


図4 【金融機関の貸出姿勢】



## （参考）会員の声

- ▶ 昨今の物価上昇に賃上げが追いついておらず、個人の住宅取得は消極的になっている。…【不動産業】
- ▶ 原材料・燃料・労務費等のコスト増に加え、借入金利上昇に伴い更に収益を圧迫している。従来より販売価格の見直し等を丁寧に行い利益を確保しているが、今後も物価の上昇に伴いコスト増が見込まれる中で収益の確保が課題である。…【製造業】
- ▶ 運賃、宿泊費等の出張に関する経費が増加しており、営業活動においてはより効率を重視するようになった。…【卸売業】
- ▶ インバウンド需要は好調を維持しているが、国内客離れの影響やインバウンド好調がいつまで続くか先行きに不安を感じる。…【小売業】
- ▶ 業界として技術者や技能者の高齢化による減少、入職者の不足は深刻である。担い手不足や経営コストの上昇により、倒産も増加している。発注者には、適正で速やかな労務費や経費を含めた工事費全体への価格転嫁を進めてほしい。…【建設業】